課題 No.1　産地を形成する多様な担い手のステップアップによる

いちごの産出額向上

1　対象名　石巻いちご生産組合(16 戸)、河南いちご生産組合(13 戸)、やもといちご生産組合(7戸)
(株)いちごランド石巻、(株)トライベリーファーム、(株)アグリパレット、(株)黄金ファーム
(株)イグナルファーム、(株)サンエイト、(株)アソラ

2　目　標

(定性的目標)

・JA 部会の各戸において課題となる技術の改善や環境制御など新しい技術の習得・技術レベル向上が進む

・各農業法人の課題改善が進み、収益が向上する。

・新規参入者が基本技術を習得し安定した栽培ができるようになる。

(R5:定量的目標)

・R5 年産いちご販売金額　81.1 千万円

3　活動内容、成果の概要(○)及び下半期の計画(◎)

(1)JA 部会への技術改善と環境制御など新しい技術向上に向けた支援

○環境制御など新たな技術の取り組みにより平均収量が R3 産 3.8→R4 産 4.0→R5 産 4.2t/10a と向上してきている。販売金額も前年よりも約 1,600 万円増加して4億 3,100 万円となった。

○環境制御以外にも各戸課題を見つけ、収量、販売金額向上に向けて R6 産の育苗や本ほ準備が進んでいる。

◎本ほにおいて、環境制御などの技術向上および各戸の課題改善に向けた指導を継続する。

(2)各農業法人の課題改善による収益向上への取り組み支援

○R5 栽培では各法人が改善点や重点的に取り組む課題を定めて取組、これを支援してきた。5法人全てで出荷量、販売金額が前年対比でプラスになった。

○生産コストの増や人材の確保・育成など収量(出荷量)増による収益向上以外の課題も見えてきている。

◎改めて課題を確認してるが、基本的には R5 産の取り組みを拡大・安定させるように支援を継続する。

(3)新規参入者への技術向上・安定支援

○(株)黄金ファーム:R5 産栽培は高設栽培1作目で基本栽培管理の指導を行った。補助事業の完了を待ち定植が 10 月に遅れたが約 3.9t/10a(R4 土耕 3.5t/10a)となった。R6 産育苗指導を継続している。

○(株)アソラ:R5 産(1作目)の基本管理指導を行い、約 4.8t/10a となった。自社目標には届かなかったが、技術面、販売面、人的な要因など課題点を確認し、R6 産の改善指導に反映している。

◎R6 産において技術向上、安定に向けた基本指導を継続する。

4　対象からの意見及び評価

環境制御技術の取り組み等により確実に収量が向上していると感じています。更に技術を向上して収量、販売額を増やし、コストが上がっている分を補いたい。指導の継続を要望します。(JA 部会役員)

JA 部会の育苗現地検討会

法人経営体への先端技術指導

(株)アソラ　基本作業指導

課題 No.2　課題名 地域のモデルとなる園芸法人の育成強化

1 対象名

(有)サントマト石巻、(株)Danny Farm、(株)絆粋ファーマーズ

2 目 標

(定性的目標)

・課題対象が導入した施設・設備を的確に使いこなし、事業計画に掲げた収量目標を達成する。

・雇用等の増加等で地域貢献が図られる。

(R5:定量的目標)

出荷量 基準年 110%

基準年 (有)サントマト石巻:トマト 令和2年度実績 11t/10a

(株)Danny Farm:施設なす 令和3年6～11 月実績 4.5t/10a

(株)絆粋ファーマーズ:ほうれんそうほか葉物 令和3年8～12 月実績 0.9t/10a

3 活動内容、成果の概要(○)及び下半期の計画(◎)

(1)大規模施設トマトの生産・環境管理技術の高度化支援 対象(有)サントマト石巻

○環境制御装置の設定とハウス内温度を確認し、厳寒期でも適正な温度を維持できるようになった。コナジラミ類の防除として2週間隔の防除を行い発生量は抑制できた。萎凋症状の発生により令和4年産は減収したので、令和5年産(7月定植)は、接ぎ木苗の使用、培地の交換、低濃度アルコール還元消毒等を行った。

(2)施設なすの栽培技術向上支援 対象(株)Danny Farm

○農園研の施設なす栽培を視察し、仕立て、天敵の導入、高温期のハウスの換気など栽培技術について情報交換を行い、栽培の参考とした。また、生育・環境データ、養液の EC を調査し、生育状況や養液土耕栽培に適した施肥管理を行えるようになった。うどんこ病の発生を確認し、主産地となっているJA古川なす部会の防除について情報提供し、定期的な防除が行えるようになった。

(3)ほうれんそう周年栽培の生産管理技術支援 対象(株)絆粋ファーマーズ

○ほうれんそうをフルに栽培すると、出荷先の株式会社石印青果の出荷調製が間に合わずロスがでることから、青梗菜、アスパラガス、トレビス等を栽培するため事業計画の変更を行った。また、月ごとに計画の達成状況を確認していくことにした。

(4)農業経営改善支援 対象(株)Danny Farm

○月ごとに計画の達成状況を確認していくことにした。また、パート職員は(株)アグリパレット等から計4人確保し、なすの収穫盛期にあわせて雇用できている。

◎生育・環境データに基づく管理の支援、病害虫防除支援、収量の聞き取り、作の振り返り、作付け計画の支援、月ごとに計画達成状況確認、雇用人数の確認を行う

4 対象からの意見及び評価

養液の EC を確認してもらって、施肥量がかなり少ないことに気づき、液肥の希釈倍率の見直しができ、普及センターの技術支援が大変助かっている。また、月ごとに計画の達成状況を確認することが必要と理解できた。((株)Danny Farm 代表)

(有)サントマト 消毒の説明

(株)Danny Farm 農園研視察

(株)絆粋ファーマーズ　アスパラガス

課題 No.3　課題名 小ねぎ産地における次世代の人材育成

1 対象名

JA いしのまきスリムねぎ部会青年部(11人)

2 目 標

(定性的目標)

・青年部員内で産地の課題が共有化され、課題解決のため部会外の団体との交流や連携が検討される。

・青年部員個人が、自身の経営に関する課題を把握し、改善に向けた取組を検討するようになる。

(R5:定量的目標)

R4年実績よりも出荷量が上回った青年部員数　2人

3 活動内容、成果の概要(○)及び下半期の計画(◎)

(1)青年部員における産地の課題把握・意識醸成支援

○青年部員やJAから意見を聴取し、アンケート実施の前に、課題把握の必要性について意識醸成が重要である点、また青年部だけではなく部会全体、特に高齢部会員に対しても働きかける必要性を認識した。一方で、異業種交流の一環として、合同庁舎での「みやぎ水産の日」について情報提供や現場視察を行った結果、9月の水産の日の販売会に、部会として小ねぎの PR 販売をすることになった。

◎部会員1人1人の部会存続に対する思いや、高齢部会員の若手育成への考えを徴収し、青年部全体に対して情報共有した上で、今後の部会の方向性について検討する。

(2)青年部員の個別課題分析・解決支援

○青年部員2人を重点対象者として定期的に指導を実施する中で、まずは生産技術の向上が重要であると認識した。指導の中で、2人とも1作ごとの栽培の振り返りをより考慮する様になり、生産技術の向上の兆しが見られ始めた。

◎重点対象者2人の出荷実績について中間検討を行い、下半期の出荷量増加に向けた指導を実施する。

(3)栽培環境を主とした基礎的栽培技術指導

○青年部を中心に部会全体も含めて土壌診断を60点以上実施し部会の土壌条件の傾向が見えてきた。また、かん水方法が生育に与える影響が非常に大きいことを改めて認識できたため、基礎的な栽培技術の改善に向け、部会員へ現状のかん水状況の聞き取りも始めた。

◎例年12月に行われる部会全体の研修会において、これまでに巡回指導で得られた技術改善策を提案するほか、高齢部会員の優れた技術をとりまとめ、共有することで青年部員への技術の伝承、向上につなげる。技術的ツールを用い、高齢部会員と青年部員が意見を交わし合うきっかけをつくり、部会全体の方向性についての話し合いを進めていく。

4 対象からの意見及び評価

熱心に巡回指導していただき感謝している。自分の施設の土の状態を把握し、対策をとれたことで今作の状態は改善してきた様に感じている。今後、部会内の意見集約や、選別場導入を見据えた事業計画の策定等、様々お世話になろうかと思うので、今後ともよろしくお願いしたい。(スリムねぎ部会 部会長)

水産の日の視察

重点指導対象への巡回指導

土壌分析返却と圃場の確認

課題 No.4　課題名　長面地域における大規模土地利用型経営体の持続的な水田農業の実現

1 対象名

(株)宮城リスタ大川、(農)みのり、 (株)ゆいっこ

2 目 標

(定性的目標)

・沿岸部の地力の低い水田において、主食用米に加えて飼料用米・WCS 用稲の収量向上と安定が図られるとともに、経営リスクと労働力の分散が図られ、安定した経営が構築される。

・大規模土地利用型法人において、春と秋の作期と労働力分散を図るため、移植栽培と省力化技術としての乾田直播栽培を組み合わせた体系が構築される。

(R5:定量的目標)

・沿岸部の地力の低い水田地域における飼料用米の収量 R5　500kg/10a

3 活動内容、成果の概要(○)及び下半期の計画(◎)

(1)飼料用米の栽培技術向上支援

○対象の勉強会の開催(7／14、(株)宮城リスタ大川9人)

○実証ほ2か所※の生育調査の実施(6～8月、1回)※堆肥、速効性・緩効性肥料が異なる。

○現地検討会の開催(7／25、18 人)。土づくりのための堆肥施用の重要性、追肥要否の助言

○地力回復の重要性を認識し、土壌条件に応じた施肥管理ができるようになった。

◎勉強会(2回)、成績検討会(1～2月)の開催、成熟期・収量調査((1)、(2)共通)

(2)飼料用米乾田直播栽培の導入支援及び効果の検証

○前作大豆、前作水稲の乾田直播実証ほ2か所の生育調査の実施(6～8月、1回)

○前年度よりも除草対策が徹底するなど、乾田直播栽培の技術が向上した。

(3)飼料用米・WCS 用稲導入効果の検証支援

○WCS 用稲ほ場の営農排水対策(カットブレーカー)の効果確認(7／25現地検討会)

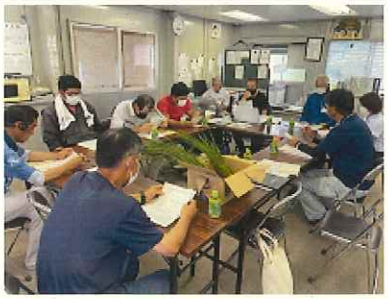
○営農排水の重要性が認識され、WCS収穫に適した土壌条件(水分)を実現できた。

◎飼料用米収穫状況確認、飼料用米・WCS 用稲の導入効果検証、土壌調査

4 対象からの意見及び評価

・堆肥施用による土づくりや緩効性肥料(育苗箱施用)で生育が安定してきた。今後も堆肥施用を継続していきたい。((株)宮城リスタ大川)

・WCSほ場の排水対策は効果が高かった。今後の条件整備事業にも期待している。(農事組合法人みのり)



勉強会(リスタ、7 月 14 日)

現地検討会(7 月 25 日)

WCS収穫(8 月 9 日)